

# カトリック

# 新潟教区報



## 「希望の巡礼者として」

新潟教区司教 パウロ 成井 大介



2024年12月24日、聖ペトロ大聖堂の主の降誕夜半のミサにて、教皇フランシスコは聖なる扉を開き、2025年通常聖年が開幕しました。この聖年は1年続き、2026年1月6日の主の公現の祭りに閉幕します。教皇は今回の聖年のテーマを「希望の巡礼者」と定め、神のみに出会い、希望の光を灯す旅に出るよう招いています。

### 聖年の意義

レビ記25章には、「ヨベルの年」についての解説が書かれています。これは、50年に一度巡ってくる年で、この年には畑を休ませたり、人に売った土地が返却されたり、身売りした同胞の雇い人が解放されたり、負債が免除されたりします。このことをレビ記は「この50年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする。それが、ヨベルの年である」と記しています。

この習慣が、キリスト教では25年に一度巡ってくる聖年として受け継がれています。ですので、聖年はただ単に全免償が受けられる年というのではなく、神の前にすべての人が尊く、権利を侵害されていたらその状態を解消し、持ち物を搾取されていたらそれを返し、負債から解放さ

れる、言ってみれば、教皇フランシスコが「ラウダート・シ」で教えた、神と、人と、被造物との正しい関係を取り戻す、そのような年として理解することが大切だと思います。教皇フランシスコは、2025年通常聖年を公布する大勅書、「希望は欺かない」の最初で、次のように述べています。

「すべての人にとって聖年が、救いの「門」である主イエス（ヨハネ10・7、9参照）との、生き生きとした個人的な出会いの時となりますように。教会は、主イエスを「わたしたちの希望」（一テモテ1・1）として、いつでも、どこでも、すべての人への伝える使命をもっていきます。」

つまり、イエスこそが、神と、人と、被造物との正しい関係を生きた模範であり、そのイエスの生き生きとした個人的な出会いを持つことで、イエスに倣って生きていきたいと思います。そして、そのイエスを人々に知らせていきたいと思います。そう教皇は呼びかけているのです。

### イエスの知らせ方

わたしは今回の聖年に関連したバチカンの取り組みで、心底驚かされたことがあります。それは、聖年と大阪万博のバチカンブースの公式マスコット、「ルーチェ」とその「ともだち」（ルーチェとは、イタリア語で光という意味）の発表です。デザインは完全にマンガのようで、制作を担当したイタリア人デザイナーのシモーネ・レーニョ氏は「Tokidoki」という日本のマンガに影響を受けたデザインブランドを展開しています。小教区の教会学校の教材ではな

く、バチカンによる、聖年の公式マスコットです。初めて見たときは絶句でした。バチカンにおける聖年の責任者であるフィジケラ大司教は、ルーチェを発表した記者会見で、「若い人々から愛されるポップカルチャーの世界に参加したいという望み」からルーチェが誕生したと話しました。わたしは、こうした動機は、とても教会らしい、素晴らしいものだと思います。度々お話しすることですが、教会はイエスの死と復活を宣べ伝える中で、次々に新しい国の人々、新しい言葉、新しい文化や習慣に出会い、その都度自らを変化させてきました。パウロはコリントの信徒への手紙1の9章で、福音のために、自分がユダヤ人に対してはユダヤ人のように、律法を持たない人に対しては律法を持たない人のように、すべての人に対して、すべてのものになった、と書いています。福音を相手に伝えるために、何が最も伝わりやすい手段なのか考え、それを実践してきたのが教会です。ルーチェは、その取り組みの一つです。きつと、若い人たちの声に耳を傾け、生まれたアイディアでしょう。わたしたちも、それぞれの場でもよく福音を伝えていくために、人々の声を聞き、大胆に行動していきましょう。なお、



聖年のロゴ

### 2025年 新潟教区会議・集会等日程 (2025年1月1日現在)

○顧問会日程		
3月24日(月) 13:15~		新潟司教館
6月3日(火)		司祭の集い会場
9月1日(月) - 2日(火)		新潟司教館
11月25日(火) 13:15~		新潟司教館
(東京教会管区代表者会議 7月1日(火) - 2日(水) 担当 東京教区)		
○司祭会議・司祭の集い等日程		
司祭評議会	3月24日(月) 15:30 - 3月25日(火) 昼食	新潟司教館
聖香油ミサ	4月16日(水) 10:00	司教座聖堂
宣教司牧評議会	4月29日(火) 祝日 10:00 - 15:00	新潟教会センター2F
司祭の集い	6月2日(月) - 6月4日(水)	新潟県内で開催
司祭評議会	11月25日(火) 15:30 - 11月26日(水) 昼食	新潟司教館
○集会等		
米沢殉教祭	5月18日(日)	
新潟教区保育者研修会	8月2日(土)	聖園学園短期大学(秋田市)
さいたま教区・新潟教区合同黙想会	9月22日(月) - 9月26日(金)	中軽井沢
教区信徒大会	10月12日(日) - 10月13日(月)	ホテルメトロポリタン(山形市)
聖年 閉幕ミサ	12月28日(日)	司教座聖堂



ルーチェ(聖年のマスコット)とその友だち

聖年の取り組みのためにルーチェの画像データを希望される方は教区事務局までご連絡ください。

# 秋田地区殉教400周年

まだ暑さが残る2024年9月29日の日曜日、晴天に恵まれた中、秋田殉教400周年記念式典と記念ミサが、カトリック秋田教会にて執り行われました。秋田市にあった刑場で32名のキリシタンが火あぶりにより殉教した1624年7月18日から400年。ともに祈りを捧げる為に、県内各教会から集うことができました。秋田教会では毎年7月に殉教者の為の祈りを聖堂横の殉教碑の前で捧げていますが、400年という大きな節目にあたる今年は、秋田地区の行事として記念式典を開催する運びとなりました。

司教様、神父様合わせて13名の前列席と150名を超える信徒、修道者の参加がありました。今回の記念講演を快くお引受けいただきましたのは、イエズス会司祭で上智大学教授の川村信三神父様です。そして、昨年、一昨年と殉教についてのご講話をいただきました同じくイエズス会の平林冬樹神父様は東京から、名古屋教区の浅井太郎神父様は東京から遠路はるばる足をお運びいただきました。平林神父様、浅井神父様とともに、列聖推進委員会のメンバーとしてご活躍されています。秋田県内の小教区からは、能代教会マルティン神父様、鹿角教会アンジェ神父様、大館教会ヒー神父様、横手教会

クジュール神父様、本荘教会新立大輔神父様、土崎教会インセン神父様、秋田教会飯野耕太郎神父様、桃田清明神父様、エジルソン神父様、さらに新潟教区成井大介司教様にご列席いただき、盛大な中にも厳かな雰囲気での開催となりました。

秋田地区信徒徒職協議会会長の渡部良典氏より「あなたの命が400年という時間を経て、着実に身を結んでいることをお伝えできることは、私達にとって大きな喜びです。先人の信仰に深い感謝を捧げないわけにはいきません。今を生きる私達にとって、殉教は遠い過去に起こっただけのことでなく、殉教者は今を生きる私達と同じ信仰に生きていたのです。今日が新たな信仰を生きる為の一日となりますように。」というはじめの挨拶をいただきました。続いて、飯野神父からは大きな実りとして、約2年前から黙想会などによって殉教者についての学びを信徒の皆さんと重ねてきたこと、そして秋田の殉教者のしおりを作成でき、皆さんにお渡しできたこと、についてお話しいただきました。殉教者のしおりは、県外、国外から巡礼にいらした方々にも是非お持ちいただきたいとのことでした。

続いて、新潟教区成井大介司教様より、「殉教者が生きて死んでいっ

た地に、今こうして生きていることは重要なことであり、殉教者の取り次ぎに支えられて、今同じ信仰を生きている大切さを今日はしっかりと意識し、祈る日ではないかと思えます。自分自身の信仰を振り返る良い時となりますように。」とのお話しがありました。

続いて、川村信三神父様による特別基調講演「東北キリシタン史を見直す―教皇パウロ5世の新発見文書（フィレンツェ文書 から読み解く）」を約1時間にわたりお話しいただきました。1619年京都、1622年長崎、1623年江戸、1624年秋田であった四大殉教に関すること、当時の東北の宣教師の活動、炭鉱などでの潜伏信者のこと、殉教者の列福に関すること、秋田の殉教者が列福される為には、殉教者の名前（漢字やカナ）が非常に重要であることなどなど、非常に興味深く詳細にお話しいただきました。この講演をするにあたって、秋田周辺の殉教者の詳細な一覧名簿を作成したこと。しかし、その作成に大変な苦労があったことなどを歴史的な文書を使いながらお話しされました。

基調講演の後は、成井大介司教様の司式により記念ミサが捧げられました。「私達は、それぞれの日々の生活の中で、殉教者に倣って神の愛を生かすことができるように、殉教者の取り次ぎを願いたいと思います。世界には、信仰を理由に命を落とす

人が今も沢山います。神がその方々を報いてくださいますように。」という言葉でミサを始められました。聖堂にいる皆の祈りがひとつに結ばれた素晴らしいミサとなりました。

記念ミサの後は、場所をキャッスルホテルに移し、約100名の参加による記念祝賀会が和やかな雰囲気の中開催されました。土崎教会の細矢了氏が今回の式典の為に作成した、秋田の殉教者について分かりやすくまとめられた10分程のビデオが入って感銘を受けている様子でした。今こうして皆で集い、信仰をつなぎ、ともに祈りを捧げられたことに感謝いたします。

神に感謝十  
パウロ三木 鈴木 智 記



ひとりで悩まずわたしたちにご相談ください

**カトリック新潟教区**  
**セクシャル・ハラスメント相談窓口**

司祭・修道者による未成年者性虐待とセクシャル・ハラスメントについての窓口です

TEL 080-8912-8758

受付 毎週火曜日 13:00~14:00 (除く祝祭日)

性虐待被害者のための祈りと償いの日

2025年3月21日(金)

**追記**

秋田教会では、殉教400周年の記念誌を発行予定です。(発行時期はわかり次第お知らせいたします。)

カトリック新聞10月27日号と11月3日号に、秋田地区殉教400周年に関連する記事(式典の模様や川村神父様の基調講演)が掲載されました。また400周年記念式典、記念ミサの様子はYouTubeで視聴可能です。ご覧になりたい方は、下記の二次元コードからどうぞ。



日本宣教75周年を迎えて

# 「イエズス・マリアの聖心会の歴史と宣教の歩み」

イエズス・マリアの聖心会  
日本・フィリピン管区 管区長 千原 通明

イエズス・マリアの聖心会は1800年にフランスで創立されましたが、それは大きな社会的混乱期のことでした。1789年から1799年まで続いたフランス革命は別名「市民革命」とも呼ばれ、世界史の中では絶対王政の終焉と市民権の獲得など肯定的に捉えられていますが、カトリック教会にとっては大変な迫害の時でした。多くの司祭が捕らえられ処刑されたり、聖堂や祭具が荒らされたりするなどしました。そんな中、1792年にピエール・クードラン神父はパリ市内のある大学の図書室で密かに司祭に叙階され、農民の格好をして潜伏しながらの活動を始めました。しかし捕らえられることを恐れて5ヶ月間、ラ・モッテ・デュッソーという田舎の農家の屋根裏部屋に潜伏していたのですが、まさにその時に男子と女子が共に歩む修道会のビジョンを得て、再び外に出て活動を再開し、ポワチエでアンリエット・エメールという女性に出会います。



マザーアンリエット  
(イエズス・マリアの聖心会 創立者)



クードラン神父  
(イエズス・マリアの聖心会 創立者)

て、そこにクードラン神父も加わり、同年12月24日の降誕祭の中で、アンリエットは終生誓願を、クードラン神父は初誓願を立て、イエズス・マリアの聖心会が生まれたのです。しかし、修道会としての表だった活動は革命が終わった後もできずに、聖体礼拝と祈りを捧げる日々が続きました。ようやく会が正式にローマ教皇によって認証されたのは1817年のことでした。このように、人々が信仰の大きな危機に直面し、教会も迫害をひどく受けていた時に拠り所となったのがイエズの聖心でした。

イエズス・マリアの聖心会は創立された当初から宣教に熱心な修道会でした。1825年には教皇庁から現在のハワイ州があるサンドイッチ諸島の宣教を任され、ハワイでのカトリック教会の歴史が始まりました。モロカイ島で活躍した聖ダミアン神父(1840-1889)も、その宣教師の一人でした。

アジアにおいては、シンガポールでの宣教が1923年にオランダ管区によって始められ、そこからインドネシアに広まったのが最初です。現在では、神学生も含めて95名が所属する、修道会の中で大きな管区となっています。また、中国の海南(ハイナン)島にはフランス管区の宣教師が1920年代に渡りいくつもの小教区を設立しましたが1953年に国外追放となり来日。1954年以降、山形県の司牧を担当することになりました。

一方、チリ出身のマテオ・クローリー神父(1875-1960)が当時の教皇ピオ10世により聖心の使徒として任命され、家庭におけるイエズの聖心への奉献の大切さを説いて世界を回り、1935年から36年にかけての1年ほどは日本に滞在しました。それよりも前になりますが、東京教区の岩下壮一神父はパリ留学中、彼から召命の大きな影響を受け司祭になっていました。今年の修道会のローマ総会では、彼と、インドネシアで活躍したロルフ・ライケンバツハ神父(1931-2004)の列福調査が始められることが決められました。

戦後、日本への最初の宣教師が当時のアメリカ東海岸準管区から派遣され横浜港に着いたのは1949(昭和24)年7月23日のことでした。ローレンス・クレイグ神父、パトリック・ヘラン神父、そしてアルバート・エヴァンス神父の3名です。当初茨城県には水戸教会しかありませんでした。しかも聖堂はなく、司祭館と

その中にある小さな聖堂、そしてその前年に開設された水戸聖母幼稚園の、払い下げ兵舎を利用した園舎があるだけでした。戦後間もない頃の貧しい日本、外国から来た宣教師の苦勞がしのべれます。それから下館教会、土浦教会が1951年に創立され、その後も茨城県内各地に小教区共同体が形成されていきました(現在10小教区)。

イエズス・マリアの聖心会の宣教の特徴は、会の霊性であるイエズの聖心と聖体の秘跡を中心にした家族的交わりにあります。日本においても、教会のない時代から家庭訪問や家庭集会を大切にしてきました。茨城県笠間市の友部修道院の庭では、毎年「家族の日」が開催され、昨年は43回を数え修道会の日本宣教75周年をお祝いしました。小教区の壁を越えた家族的交わりが今も大切にされています。

しかしながら現在、修道会の召命不足と超高齢化の問題は、日本のどの修道会も教区も直面しています。イエズス・マリアの聖心会も、91歳のマイケル・コールマン神父が現役の主任司祭であり、他にも80歳以上の司祭2名が現役で働かざるを得ない状況になっています。

また今年には聖年で「希望の巡礼者」がテーマとなっています。皆様と歩んできた75年間の恵みに感謝しながら、これから希望を持って共に新たな歩みを始めたいと願っています。その土台となるのがイエズの聖心の霊性と聖体の秘跡を中心とした家族的交わりです。どうぞよろしくお願いたします。

い状況になっています。また邦人司祭も、山田宣明神父、本間研二神父、そしてわたしの3名だけとなってしまい、インドネシアとフィリピンからの宣教師に頼っています。このような困難な状況にあって、2023年に開かれた日本・フィリピン管区の総会で「わたしたちイエズス・マリアの聖心会は日本での宣教をあきらめない」ことを決議し、人的に大きな力を持っているインドネシア管区の傘下に入って継続することを目指すことになりました。具体的にどのような組織や態勢になるかはこれから話し合われていきますが、大きな決断です。

昨年10月に教皇フランシスコはイエズの聖心についての新しい回勅「Dispositio(主はわたしたちを愛してください)」を発表されました。また今年には聖年で「希望の巡礼者」がテーマとなっています。皆様と歩んできた75年間の恵みに感謝しながら、これから希望を持って共に新たな歩みを始めたいと願っています。その土台となるのがイエズの聖心の霊性と聖体の秘跡を中心とした家族的交わりです。どうぞよろしくお願いたします。

## 地区便り

### 中越地区 第51回新潟教区カトリック保育者研修会を終えて

学校法人聖母学園中越地区担当 諏佐 恵美子

令和6年度第51回新潟教区カトリック保育者研修会は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、久しぶりに対面形式で10月19日(土)

に開催されました。当初は、参加者が少ないのではと心配しておりましたが、170人余りと大変多くの方にお出でいただきました事に感謝申し上げます。

秋田、山形からの参加者も多く、前泊や朝早くからお出でいただき有難う御座いました。

今年度の講師は、山口県宇部市よりお出でいただきました片柳弘史神



父様でした。片柳神父様は、卒業後、インド・コルタカに行きマザー・テレサの所でボランティア活動を1年間行い、直接お会いして神父様の道を勧められた方でした。その後、2008年上智大学大学院神学研究科を修了され、同年、司祭叙階されたという素晴らしい神父様でした。ご講演は、とてもエネルギーが溢れ、熱のこもったお話しに、参加者は身も心も引き込まれていきました。2講演(1講演60分)ともあっという間に終了し、もっとお聞きしたいという気持ちになりました。参加者の多くは、若い方や未信者の方で宗教教育は、神父様かチャプレンまたは、園長が行うものと考えている方が多かったようです。しかし、「神父様のご講演をお聞きして、日々の生活の中で綺麗なお花を見て「きれいだね」「かわいいね。」と感じる心が大切に「そうだね、神様が作ってくれたんだよ。…」という感性で、自分たちも宗教教育に携わることが出来るんだと教えていただき、これから、子どもたちと関わる時にやってみようと思えました。」という参加者の言葉が多く聞かれました。宗教教育は、私たちが行っている乳幼児・児童教育の中で、生活そのものだという事が若い先生方や未信者の方々にも分かっていた事、大きな収穫でした。

また、午後からの分かち合いは、6人〜7人の小グループに分かれて自由に話し合いをしていただきました。久しぶりに色々な幼稚園、保育園、施設の方々との話し合いが出来、大変盛り上がりつつあったようで、笑いや歓声が飛び交っていました。記録の中にも「分かち合いに参加して良かった。」という内容が多く見受けられました。

それから、この度は成井司教様はじめ、大勢の神父様が参加していただき感謝申し上げます。神父様が多



い研修会はいつも神様が守ってくださるよう安心して参加することが出来ます。そして、神父様方は、いつも私たちを見守ってくださり感謝申し上げます。これからも、ご指導を宜しくお願い致します。

来年度は、秋田カトリック学園理事長の newly 大輔神父様が、秋田での開催をお引き受けくださいました事に感謝申し上げます。研修会を終えてのお礼と関係者の皆様には、ご協力有難う御座いました。

**長岡地区**  
**子どもミサ2024**

長岡教会 マリア・アスンチアータ 太田 祐未

11月23日(土)に、長岡教会を会場に子どもミサを行いました。スタッフをしたのは青年有志。私たちが子どもの頃に、同じ地区の教会学校が合同でサマーキャンプをしたり、クリスマス会をしたりと、楽しかった思い出があります。その楽しかった経験を、今の子どもたちにもしてほしい、つないでいきたいという想いで呼びかけ、賛同してくれた青年で企画をしました。

企画を作る前に、どんな会にしたか、何を話したいか、どんな会にしたいか、一人だけ…と感じている子どもたちが小教区を越えて同年代と出会う横のつながりをつくること、「楽しい!また参加したい!」と思ってもらうことを目指し、テーマ

を「シャローム〜みんなであつなろう〜」としました。

当日は、子ども、保護者、司祭、スタッフ合わせて、想像をはるかに超える70名程の参加がありました。長岡天使・聖母幼稚園もお借りし、バースデーチェーンや震源地ゲームでアイスブレイキングを行い、その後、チーム対抗でリバーシゲームや絵しりとりをしました。最後は、みんな「ぶどうの木」を作りました。今日の会に参加して感じたことを文字や絵で表現したり、未就学児さんは色紙でぶどうを作ったりといういろいろぶどうが、みんなの思いが溢れる、豊なぶどうの木となりました。

会の最後は、子どもミサを行います。侍者も、朗読も、共同祈願も、奉納も、演奏も、すべて子どもたちが担当する、子どもたちのためのミサでした。普段は奉仕にあまり参加できていないという子ども、「朗読をやりたい!侍者になりたい!」と積極的に参加してくれました。

初めて出会う子どもたちがほとんどで、母語も様々でしたが、すぐに打ち解けて仲良くなり、子どもたちの力はすごいなと思いました。初の試みでどきどきでしたが、楽しかったという声をたくさんいただき、嬉しく思います。笑顔溢れる素敵な会となりました。

司式をしてくださった成井司教様、新潟教区の神父様方、そして会場を貸してくださった長岡教会の皆様など、本当にたくさんの方々に、様々な面でご協力をいただきました。



**山形地区**  
**外国からのみなさんに感謝**

山形教会 小林 雅人

ここ数年の間に、山形教会を構成する『カタチ』は大きく変化しました。これまで教会を牽引してきた方々は高齢化、施設の入所や病気などにより、教会に足を運ぶことが難しくなり、司祭やシスター、聖体授与の臨時の奉仕者により、それぞれの家庭へ出向いてのご聖体拝領という対応を行わなければならない状況になっていきます。

そして、当教会における外国人の比率が多くなっていることも変化のひとつです。以前からミサでは外国語による聖書朗読は行われておりま



したが、今では朗読以外にも、拝領の歌や閉祭の歌をフィリピン、ベトナムのみなさんにもお願いしたり、外国語指導助手で働いているアメリカの方には教会学校でこどもたちに簡単な英語を教えていただいたり、「聖年の祈り」は毎週、英語、韓国語、ベトナム語、ポルトガル語などの数カ国語で祈られ、これまで外国人はお客さんのように対応してきたことにも変化が現れてきました。それは定例の評議会でも提案された、クリスマス馬小屋作りをすべてベトナムのみなさんをお願いしたことです。「日本人の発想とは違うのかな」という期待が膨らみました。そして、その出来映えは想像以上に素晴らしく、多くの方が写真に納めました。

現在、ミサにあずかる信者の三分の一以上は外国人という比率になってきました。今後はさらにその比率が増えることは間違いありません。異国の地、山形教会の一員として活動して下さるベトナムをはじめとする外国人のみなさんに感謝するとともに、これからも大きな期待をしています。